

■素敵な一年に。

東日本大震災から1年が経ちました。復興支援の道のりはまだ長く、この気持ちを表すよい言葉は見当たりませんが、みなさまがそれぞれに東北そして身近な人へ思いを馳せた3.11だったと思います。今年に入ってからは寒い日が続きましたが、近頃少しずつ春の香りを感じます。新年度も笑顔のあふれる素敵な1年になることを祈っています。今年度の全国大会は東京で開催されます。全国大会そして研修会では、臨床発達心理士として、できることを改めて考える良い機会となると思います。みなさまの積極的な参加を期待しています。

■目次

- I. 2012年度「東京支部総会」および「第1回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」のご案内
- II. 2012年度 全国大会のお知らせ
- III. 2011年度 研修会報告
- IV. 事務局より

I. 2012年度「東京支部総会」「第1回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」のご案内

下記の要領にて、2012年度「東京支部総会」「第1回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」を開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。東京支部では、今年の総会は、支部長・副支部長の改選もありますので、ご参加よろしく願います。

<日時> 2012年5月20日(日) (時間厳守。遅刻者にはポイントは発行されません)

- 9:30～12:30 東京支部主催 第1回資格更新研修会
- 12:30～13:00 2012年度 東京支部総会 支部長・副支部長選出
- 14:00～15:30 ネットワーク研修会(3部門)

<場所> 日本大学文理学部 百周年記念館 国際会議場

最寄り駅 京王線 下高井戸駅 または 桜上水駅 徒歩8分
(詳しいアクセス方法はhttp://www.chs.nihon-u.ac.jp/access_map.html)



<プログラム>

1. 第1回資格更新研修会 9:30~12:30 (受付:9:00~)

- ・参加費: 東京支部会員無料 (他支部会員 2000 円)
- ・ポイント: A区分研修 1ポイント
- ・テーマ: 「WISC-IVを発達支援に生かすために ~事例から学ぶ~」
- ・講師: 大六一志氏 (筑波大学)
- ・要旨: WISC-IVの概要や検査結果の読み取り、WISC-IIIとの違いについて学び、子どもの認知特性をよりの確に把握するためのポイントをお話いただきます。検査結果を子どもの発達支援に生かせるよう、事例も提示してご講義いただきます。

2. 東京支部総会 12:30~13:00

東京支部の活動報告・活動計画・予算など、会員の皆様に大切なお知らせをお伝えする場です。今年度は支部長・副支部長の改選がありますので、ご参加ならびにご協力をお願い申し上げます。

- * 出席の方も、欠席の方も、東京支部ホームページ(<http://www.jocdp-tokyo.net>)よりご登録をお願いします。
特に「欠席」の方は、議決権の委任に関する登録がありますので、必ずご登録いただきますようお願いいたします。
ホームページでの登録ができない場合は、メールにてく東京支部事務局 jimu@jocdp-tokyo.net までご連絡ください。

3. ネットワーク研修会 14:00~15:30 (受付:13:30~)

- ・参加費: 東京支部会員無料 (他支部会員 2000 円)
- ・ポイント: A区分研修 0.5ポイント

東京支部では会員相互の情報交換と主体的な活動を促すために、3つのネットワーク活動を展開しています。

A 発達臨床研究ネットワーク、B 子育て・発達支援ネットワーク、C 特別支援教育ネットワークの3種よりいずれかを選んでご参加ください。メンバー同士の交流を目的とした懇談会を行い、今年度のネットワークの研修内容について討議します。途中での入室・退室はご遠慮ください。

研修会参加後に、「ネットワーク・メンバー登録」をしていただきます。複数のネットワークに所属することも可能ですが、ネットワーク・メンバーは、今後の研修会の企画と運営に主体的にかかわっていただきたいと思っております。2回目以降のネットワーク研修会は日程を重ねないように企画し、連絡はメールや東京支部ホームページでお知らせします。

A 発達臨床研究ネットワーク

<対象> 研究者や実践研究を目指す臨床家など (世話人: 須田治・東敦子)

発達臨床独自の研究を育むための研究交流を図り、臨床発達心理学の独自の領域と研究の質的向上をめざす。研究知見の新しい領域を拓き、傷つきやすさ、困難からの回復力などの発達論的解明、またその神経心理学的解明、あるいは適応支援の新たな方法論の開拓、さらには心理学問題の背景にある社会-環境的側面の解明など、広い範囲の発達臨床の課題を取りあげ、それに対する研究者としての取り組みを促進するための交流会議とする。参加者は、東京支部に限ることなく受入れ、研究を行なっている立場からの参加を原則とするが、研究への関心のある人びとの参加も受入れることとする。年1、2回の開催を検討している。

B 子育て発達支援ネットワーク

<対象> 保育園・幼稚園巡回、健診、療育に携わる人
(世話人: 河島恵美子・坪井寿子・小堀あゆみ・河合真紀子・吉田由紀子)

乳幼児期の支援に関わる会員同士の情報交換や意見交換など、学び合いの場である。参加者の所属は、乳幼児期の発達支援機関、保育園や幼稚園への巡回相談、保健センターの乳幼児健康診査、児童相談所、子ども家庭支援センターなどさまざまであり、乳幼児期の育児・発達支援領域において、より質の高い支援を提供していくことをめざす。

地域の関係機関のネットワークを密にしていくこと、他の機関の新しい取り組みや最新の情報を得ること、これらを通して時代や社会の動きを捉えることについてのディスカッションをおこなう予定である。

C 特別支援教育ネットワーク

＜対象＞ 学校現場で特別支援教育に携わる人（世話人：田中雅子・正田康恵・大隈幸子・菅原眞弓）

特別支援教育にかかわる会員同士の情報交換とネットワークづくりをめざしている。特別支援教育コーディネーターとして、コンサルテーションとして、学校にかかわる中で、「授業づくり、学級経営にどのように取り組むか」「校内支援、地域支援にどのように取り組むか」など、日々の取り組みについて参加者同士の情報交換をおこなっている。

お互いの実践を報告し合いながら、研修の場、参加者の交流の場にしたいと考えている。特別支援教育コーディネーターをしている教員はもちろん、今後コーディネーター的役割を担っていく教員、巡回相談に携わっている心理職の方の参加を歓迎する。

今回は、杉並区立済美教育センターの加茂るりゑ 氏に東京都杉並区における特別支援教育の取組について心理職としてどのように関わっておられるか実際のところを話題提供していただく。

＜受講条件＞ 下記2項目を満たしていることが必要です。

- ・日本臨床発達心理士有資格者であること
- ・今年度分までの会費(全国士会・支部会費のいずれも)を納めていること

他支部の方の参加もお受けしますが、定員を超える場合は東京支部会員を優先します。

＜申し込み方法＞

- ・東京支部ホームページよりエントリーしてください。
- ・メールでのお問合せは、＜東京支部事務局 jimu@jocdp-tokyo.net＞まで。

毎回、当日参加の方が多く、資料不足などのご迷惑をおかけしております。

そのため、**事前申し込み** とさせていただきます。

(席に空きがある場合のみ、先着順に当日参加をお受け致します)

研修会参加申込締切 : 5月10日 <http://www.jocdp-tokyo.net>

＜諸注意＞ 必ずお読みください。

- ・IDカード、資格更新研修会参加記録ノート(以下、記録ノート)を必ずご持参下さい。
お忘れの場合、ポイントは発行できません。
- ・会費納入の確認として、振替払込受領書を記録ノートの後ろに添付していただくと助かります。
- ・遅刻者、早退者には、ポイントが交付されません。午後の受付にも遅れないようにお願いします。
- ・記録ノート貼り付け用紙は、会場でお渡します。事前にご記入いただく必要はございません。

II. 2012年度 全国大会のお知らせ

2012年9月15・16日、東京ビッグサイトにて全国大会が開催されます。予約登録および予約参加費の納入にご協力ください。東京支部では準備委員会を立ち上げ、現在準備をすすめております。東京支部の会員の皆様にはぜひ実践報告等のご発表や当日の参加、お手伝い等でご協力くださいますようお願いいたします。

＜準備会メンバー＞

大会長: 竹谷志保子、**事務局**: 東敦子・小堀あゆみ、**会計**: 菊地真由美・加藤弘美、**会場**: 松村裕美、**広報**: 黒田美保・小野里美帆・中内麻美、**実践報告**: 原恵子・川間健之介、**実践セミナー**: 坪井寿子、**企画シンポジウム**: 宇賀神るり子・須田治・

Ⅲ. 2011年度 研修会報告

1. 東京支部 第2回資格更新研修会報告

- ・日時： 2011年11月27日(日) 9:30～12:30
- ・会場： 帝京平成大学
- ・テーマ：「思春期・青年期の発達障害の理解と支援 ～発達障害から起きる二次障害とその支援～」
- ・講師： 齊藤万比古氏（国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科部長）
- ・司会： 大隈幸子氏（東京都王子第二特別支援学校）
- ・参加者数： 152名(会員141名、非会員11名)
- ・研修要旨： 臨床発達心理士会東京支部では、東京都教育委員会からの依頼により、平成18年度より都立高等学校における特別支援教育のための巡回相談に、また19年度からは文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」の都立指定校2校の巡回相談に携わっている。その経験の中で、発達障害のある児童・生徒の二次障害の複雑化と困難さ、その予防について知識を深めることの重要性が提起された。今回の資格更新研修会は、この問題に造詣の深い齊藤万比古氏を講師に招き講演いただいた。

参加者アンケートでは、非常に満足83名、おおむね満足31名、やや不満1名、大いに不満0名となった。

研修参加者より、具体的な症例を挙げながらの講義だったので分かりやすかった(多数)、発達障害を人が育つというプロセスの観点から専門的に話されてとても勉強になった、障害のある人たちへの本質的な「適応」の考え方がとても参考になった、一歩踏み込んだ二次障害の話が聞くことができ医療の面から理解することができた、文化の違いによって診断の傾向が違うことが印象的だった、「支援もストレスになることがある」ということを肝に銘じて支援に取り組んでいきたい、普段は幼児期の子ども達の支援を行っているが発達について考える上で勉強になった、ADHDやPDDの特性が分かりやすく理解できた、などの意見が得られた。

2. 特別支援教育ネットワーク 第2回研修会報告

- ・日時： 2011年11月27日(日) 13:00～16:30
- ・会場： 東京都立王子第二特別支援学校
- ・テーマ：「インシデントプロセス法を使っての事例検討会」
- ・講師： 宇賀神るり子氏（調布市子ども発達センター）
- ・司会： 菅原眞弓氏（立川市立第七小学校）
- ・参加者数： 39名
- ・研修要旨： 特別支援教育に関わる者にとって、児童・生徒実態把握に関する知識と経験は、その後の支援計画を作成する上で重要な意味をもつ。特に、発達障害をもつ児童・生徒を理解する際には、行動観察に加えて、心理検査による客観的データをいかに読み取るかという事も重要である。しかし、心理職として日々関わっている場合を除き、学校現場では実際に検査を実施する機会は少ない。今回は、このような状況を鑑み、WISC-Ⅲの検査結果及び行動観察等によるデータを基にして、インシデントプロセス法による事例検討を行い、更に検討した支援策を活かした個別指導計画の作成までを演習を通して研修していきたいと考えた。

今回は、午前に第2回資格更新研修会が開かれたこともあり参加人数が多かった。参加者内訳は特別支援学校教員が最も多く17名、次いで学校関係者15名、心理職7名であった。また、WISC-Ⅲの結果読み取りにおいては初心者が多かった。事例検討ではWISC-Ⅲ上級者と初心者のバランスを考えた7グループ編成で行った。実施後の反省点は以下の通りである。

- ・インシデントプロセス法は、事例を提供する側の負担が少なく学校現場ですぐに取り組みする方法であることから今回取り上げたが、この方法についての参加者の理解が不十分であった。
- ・話し合いが盛り上がった班とそうでない班とがあった。
- ・方法論はたくさんだが、関係性や多様な状況の中で、それらの方法をどのように選択していくのかという視点がでにくかった。

これらの点を踏まえ、次回の事例検討会では、次の点に留意して行うこととする。

- ・事前に、インシデントプロセス法についての十分な説明を行う。

・個別指導計画作成にとらわれず、支援の方向性(本人・保護者・関係者)を出すことができるようなまとめ方を提示する。

3. 特別支援教育ネットワーク 第3回研修会報告

- ・日時: 2012年1月8日(日) 14:00~17:00
- ・会場: 東京都立王子第二特別支援学校 会議室
- ・テーマ: 「インシデントプロセス法を使っての事例検討会」
- ・講師: 宇賀神るり子氏(調布市子ども発達センター)
- ・司会: 田中雅子氏(東京都立中野特別支援学校)
- ・参加者数: 22名
- ・研修要旨: 特別支援教育に携わる者にとって、関係機関と連携して幼児・児童・生徒の支援策を検討することが、ますます重要になってきている。今回は支援会議等で幼児・児童・生徒の支援に活かせる情報を得るために必要なことは何か、ということをも「インシデントプロセス法」を使って研修した。与えられた情報だけでなく、支援者自ら支援に有効な情報を得るために必要な視点は何かということをも学ぶとともに、心理職、教員等の立場の違う支援者・関係機関がどのように連携して支援にあたるか、の実際について事例を通して学んだ。渡邊氏からは、児童の実態や保護者の様子、担任の関わりなど、事例を提供してもらった。「インシデントプロセス法」を活用して質疑応答、グループ討議を1時間ほど行い、具体的な支援策について話し合った。
事例検討+グループ討議というスタイルは参加者から好評であり、第2回の反省を受けて、模造紙や付箋紙等を用意し討議しやすいように工夫した。またグループの構成メンバーを教員と心理職と半々にしたのも「普段と違うフィールドのメンバーと意見交流ができよかった」と好評であった。事例検討会の研修スタイルは、今後も継続したいと考えている。

4. 子育て・発達支援ネットワーク 第2回研修会報告

- ・日時: 2012年1月28日(土) 13:00~16:00
- ・会場: あかねの会
- ・テーマ: 「乳幼児の子育て・発達支援に携わる心理士にとっての縦軸の視点」
- ・講師: 吉田由紀子氏(社会福祉法人あかねの会)
- ・司会: 坪井寿子氏
- ・参加者数: 32名
- ・研修要旨: 乳幼児期の時期から成人期に至るまで継続してかわり、それぞれの発達、生活、人を見ることを通じて、支援する側も主体的にかかわっていきけるのではないかと等さまざまな視点から検討を行った。今回は、社会福祉法人「あかねの会」の吉田由紀子氏にお願いし、話題提供と施設見学を実施した。講演では、施設紹介等のVTRを含め、実践に基づいたお話をいただいた。子どもを信じて、粘り強く支援していくことの大切さを改めて感じられる内容であった。講演の後、児童デイサービスの見学およびグループディスカッションを行った。また、懇親会を兼ねた地域別情報交換会を同法人のレストラン「われもこう」で行った。

5. 発達臨床研究ネットワーク 第2回研修会報告

- ・日時: 2012年2月12日(日) 13:30~16:30
- ・会場: 首都大学東京 南大沢キャンパス 国際会議室
- ・テーマ: 「発達障害における障害や支援限界を論じあい、課題を探す」
- ・講師: 藤野博氏(東京学芸大学)・須田治氏(首都大学東京)・東敦子氏(のぞみ発達クリニック)
- ・司会: 東敦子氏
- ・参加者数: 24名
- ・研修要旨: 研究と実践のつながりを考えていく上で、研究的な視点から発達障害そのものを議論し、「障害のとらえかた」「支援限界」「適応とは何か」について捉え直す機会となった。藤野氏からは当事者の視点を踏まえた支援の在り方について、東氏からは実践研究方法の限界も踏まえ、当事者発言の質的分析から見えてくる障害の困難さについて、須田氏からは、行動研究の限界を超え、青年期発達までの視野からみつめていくことの可能性について話題提供があった。フロアの議論は白熱し、日頃の実践を研究的な視点から考えなおすことの重要性とその機会の必要

性が語られ、今後の発達支援研究の発展へのさらなる期待が示された。

IV. 事務局より

東京都教育委員会からの依頼を受けて、都下の特別支援教育に関わっています。都立永福学園・青峰学園など、平成 24 年度も継続して行います。高等学校についても、継続事業となる予定です。派遣相談員養成研修なども企画・充実していきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

全国大会は東京支部会員がホストとして全国の会員の皆様をお迎えできるように、会員一人ひとりのご協力をお願いします。まずは、ホームページ上から予約参加のお申し込みを行い、予約参加費のお振り込みを 5 月 31 日までをお願いします。参加費が 3000 円引きとなります。

今年度は、支部長・副支部長選出のために、総会へのご出席をなにとぞご協力くださいますようお願いいたします。
ご欠席の方は、東京支部ホームページから、かならず委任状をお送りくださいますようお願いいたします。

<メールアドレス登録とホームページ活用について> ★ 重要 ★

・「東京支部ニュースレター」は東京支部のホームページ上に掲載し、「メール配信」にて随時会員にお知らせをします。

<http://www.jocdp-tokyo.net>

・ホームページ上の掲示板(みんなの広場)のパスワードも、事務局よりメールでお知らせいたします。

・なお、**アドレス登録のない方への郵送はおこなっていません。**

HP を随時見ていただくか、メールマガジン送付のためにアドレスの登録をぜひお願いいたします。

<連絡先>

東京支部事務局 東 敦子(のぞみ発達クリニック) e-mail: jimu@jocdp-tokyo.net



東京支部ニュースレター2012 年度第1号(通巻 15 号) 2012.4 発行
編集:小堀あゆみ・中内麻美(NL 担当)